

第 32 回日本病院総合診療医学会学術総会参加報告

2025 年 2 月 21 日から 23 日にかけて長崎県で開催された第 32 回日本病院総合診療医学会学術総会に参加しました。病院総合診療の特性を生かした症例報告や研究発表、教育に関する企画が多数行われ、活発な意見交換がなされました。本総会のメインテーマは「地域との協奏」であり、人口減少と超高齢化が進む我が国において、複数の疾患や社会的課題を併せ持つ患者に包括的に対応する病院総合診療が、地域の医療・介護資源とどのように連携し、その役割を果たしていくのかについて、全国から参集した医師らの間で幅広い議論が展開されました。

今回、当講座からは後述する 4 題の口演発表と 1 題のポスター発表を行いました。また、次年度入局予定の初期臨床研修医 2 名も参加し、そのうち 1 名は口演発表を担当しました。若手医師が主体的に学術活動に関わる姿勢が広がりつつあり、当講座における学会参加への意欲の高まりを実感しています。今後も論文投稿や学会発表を継続し、大分のみならず日本の総合診療の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。

発表演題(抄録順)

口演

「耳下腺腫脹を契機とする多発血管炎性肉芽腫症 -診断推論の方程式に基づく省察-」西郡 椋也(初期臨床研修医)

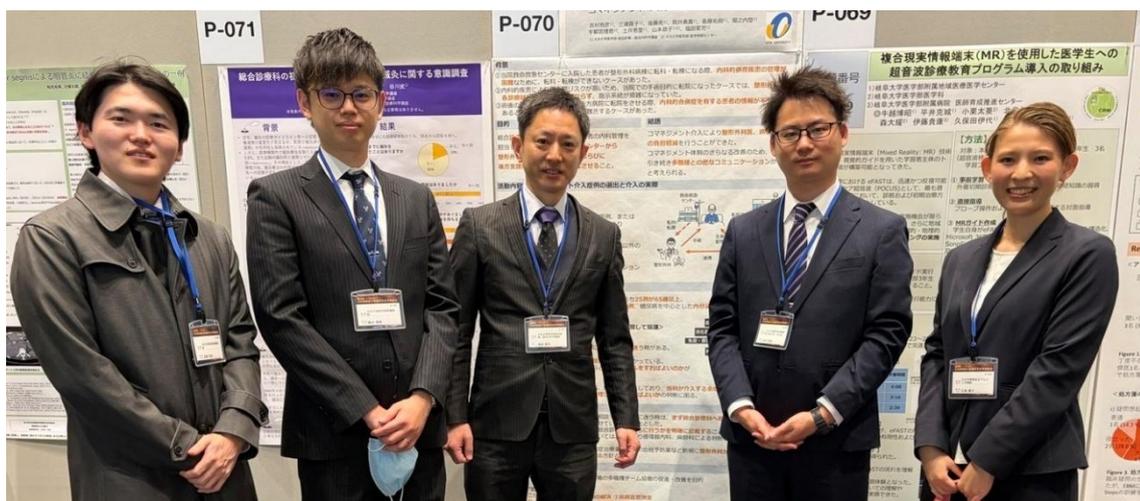
「AI 模擬患者とフィードバックを組み合わせた医療面接教育カリキュラムの実践報告」堀之内 登

「抗凝固療法を行わず血栓の消失を得たレミエール症候群の一例」筒井 勇貴

「治療介入の判断と腎機能の評価に苦慮した成人 IgA 血管炎の一例」三浦 真子

ポスター

「当院における総合内科・総合診療科と整形外科コマネジメントの取り組み」吉村 亮彦



文責 筒井 勇貴